

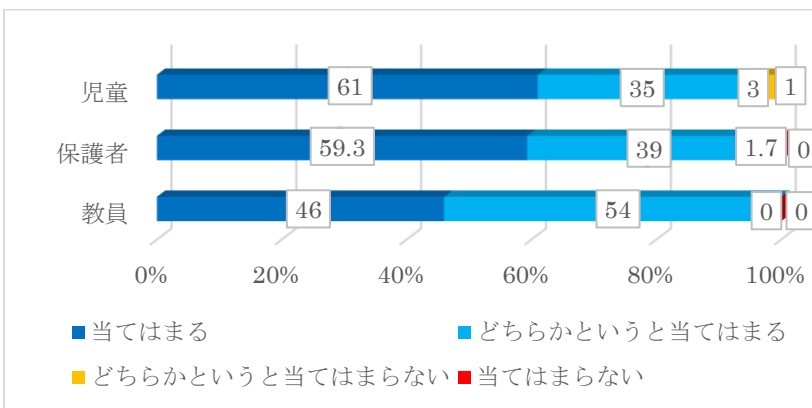


特集号

「第三小学校の教育についてのアンケート」のまとめ

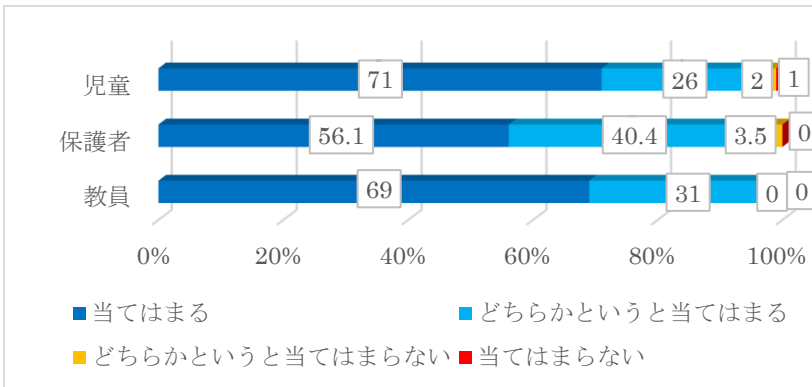
保護者の皆様へのアンケート（令和4年12月実施）につきまして、多くの回答をいただき、ありがとうございました。結果を以下のようにまとめましたので、お知らせいたします。次年度の教育活動に役立てていきたいと思っております。今後とも本校の教育活動にご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1 豊かな心 自分を大切にしたり、友達や周りの人に思いやりの気持ちをもって関わろうとしたりすることができる。



三小の児童は明るく素直で日々の学校生活を生き生きと過ごしている。中でも本校の教育目標「情緒の豊かな子ども」のとおり、周りの友達を大切に思いやりの気持ちをもって仲良く過ごしていこうとしている姿が見られる。学年が上がるごとに仲間を思いやる気持ちをもつようになってきている、という声もいただいた。

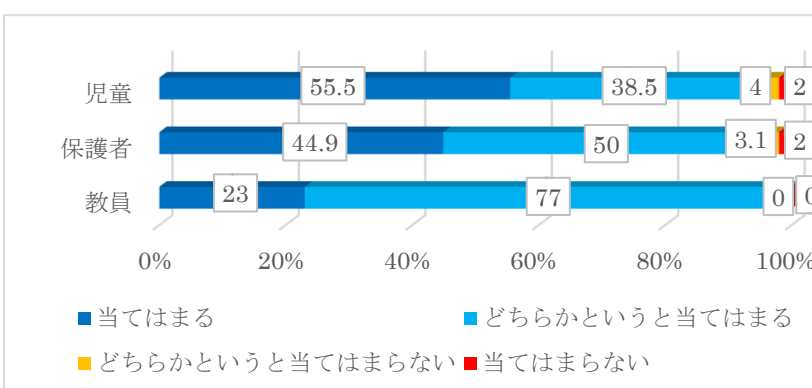
2 友達関係やいじめ対策 友達と仲良く遊んだり、勉強したりして、楽しく学校生活を過ごすことができている。



多くの児童がお互いに思いやりをもち相手の気持ちを考えて生活できている。些細なことで気持ちが行き違ったりトラブルになったりすることもあるが、その都度担任や周りの教職員の力を借りながら解決している。

「いじめはどこでも起こりうる」と捉え、深刻化する前に組織で対応するようにしている。いじめは当事者だけでなく、観衆や傍観者も加害者になり得るということを改めて伝えていく必要があると捉えている。

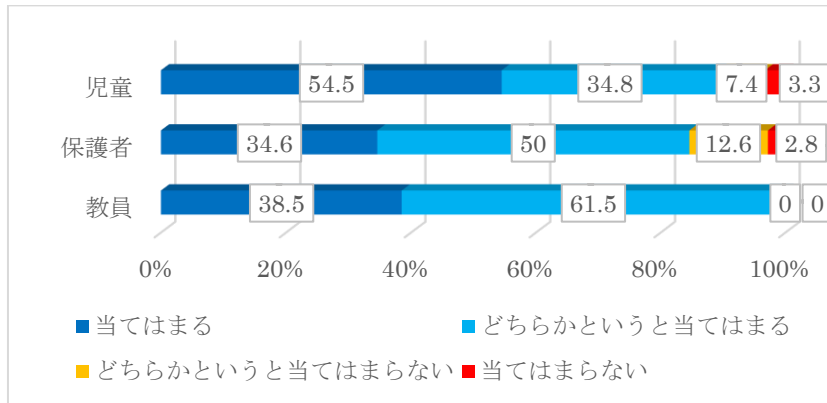
3 学力向上 授業の内容は、だいたい分かる。



児童が学習者用端末の扱いに慣れてきて自分自身が理解を深めるために活用する姿が授業中に多く見られるようになった。

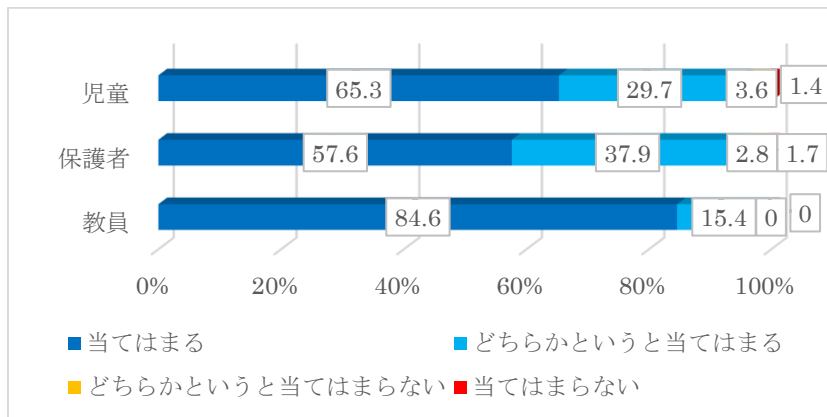
日々の家庭学習は、その日に学んだことを定着させるために宿題を出し、基礎・基本を身に付けられるようにしている。繰り返し練習を重ねることで定着し、応用力も育っていると捉えている。

4 学習意欲の向上 楽しんで授業に取り組もうとしている。



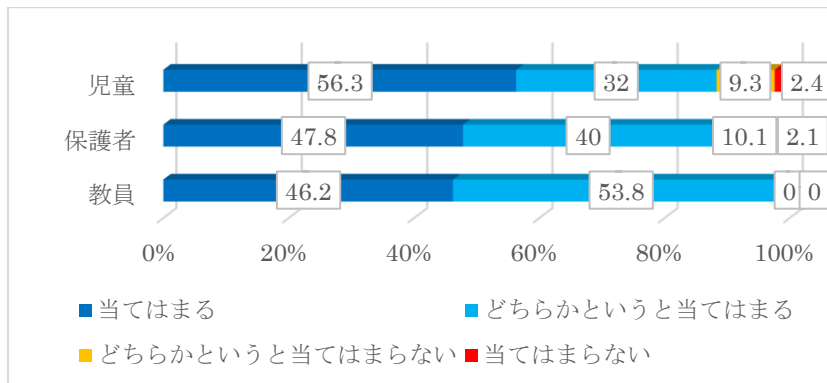
各教科、各単元の導入部分で児童の意欲や関心が高まるように教員が日々授業改善に取り組んでいる成果が現れている。子どもたちの「主体的に学びに向かう力」をより高めていくためにも、研究推進校として積み上げてきた研究実績を生かし、学習者用端末を利活用した授業改善に取り組んでいきたい。

5 ICT を活用した教育活動 学習者用端末を使った学習に取り組んでいる。



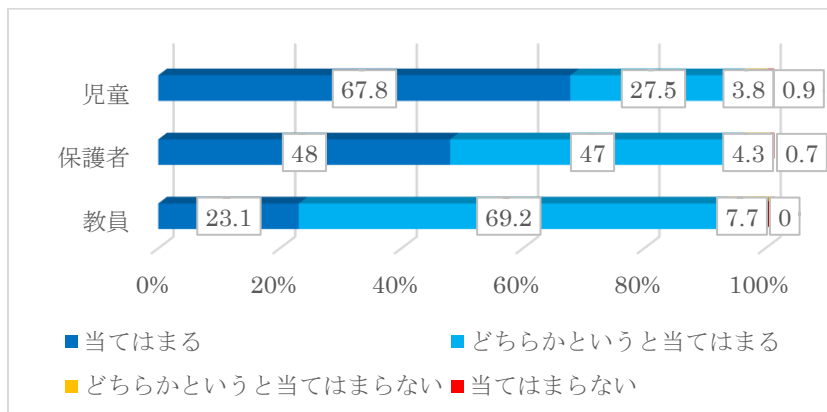
全ての教科において、教科の特性に合わせた学習者用端末の活用を日々行っている。そのため、個に応じた学習を積み上げることができている。学習時間だけでなく、行事の練習や準備、日々の係活動や当番活動等においても学習者用端末を活用する姿が見られ、日常化が図られていると捉えている。

6 体力向上 健康に気を付けながら体力を高められるようにしている。



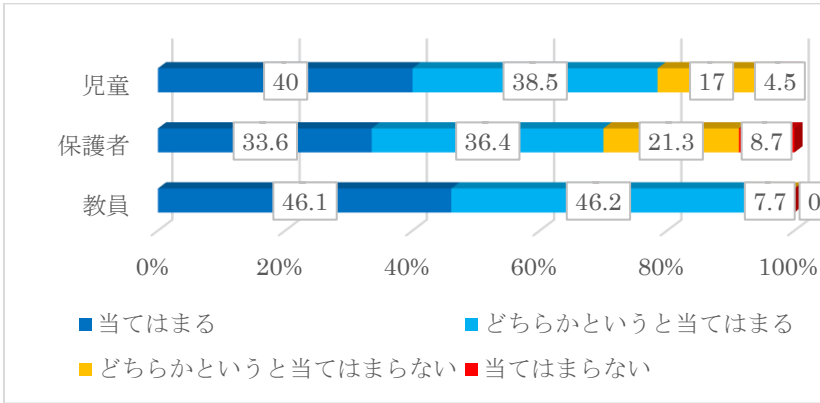
コロナ禍においてコロナや熱中症対策を行いながら注意をして運動し、体育の時間も休み時間も積極的に身体を動かす姿が多く見られている。特に、マラソン旬間やなわとび旬間には自分で目標を立てて取り組み、体力向上を図ろうとする姿が見られた。わくわくタイムでは、様々な運動に親しめるよう、運動が苦手な子も前向きに取り組むことができる点が良い、というご意見もいただいた。

7 生活指導 「おはよう、ありがとう、ごめんなさい、さようなら」等のあいさつができる。



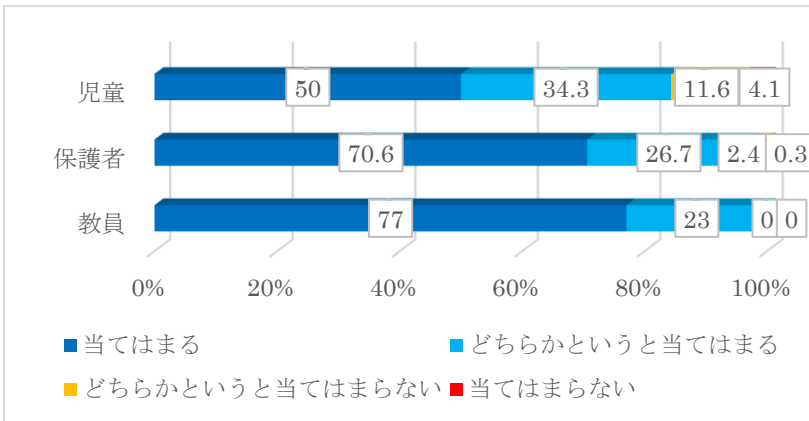
「明るく いつも 先に 続けて」を合言葉に、あいさつによって心の窓を開き、人と人のつながりを大切にしている。特にふれあい月間に実施するあいさつ運動では、代表委員会の子どもたちを中心に、自分の心を言葉にしてコミュニケーションの力を高めようとしている。恥ずかしくてなかなか自分から声を出してあいさつできない子も会釈から始めようとしている姿も見られる。

8-① 読書活動 読書に親しんでいる。



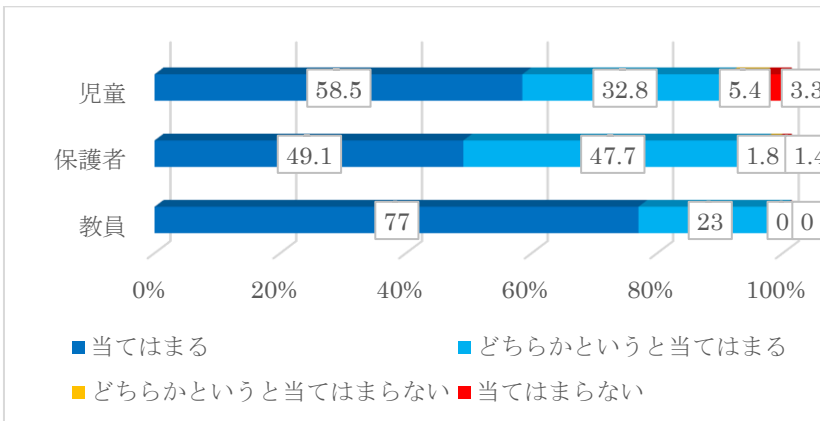
6月の雨で室内遊びの多い時期と、10月の読書の秋にちなんだ時期に行っている読書旬間の取組は、他校に類を見ないオリジナルの取組である。図書の間には、司書から他教科に関連する読み物や季節に関連する読み物などの紹介を受けることで、様々なジャンルの読み物に手を伸ばす機会を増やしている、という声をいただいた。

8-② 読書活動 学校は読書に関する取組を行っている。



家に帰ってから読書に親しむ時間がうまく取れないという声が上がっている。年2回の読書旬間を行う中で、今年度は「家読カード」を取り入れた。「家でも読書の習慣が付くように」との思いで実施したが、読書習慣の定着にはなかなか至らない様子があった。図書日よりで紹介した教職員のおすすめの本は、多くの子どもたちが手に取るきっかけとなった。

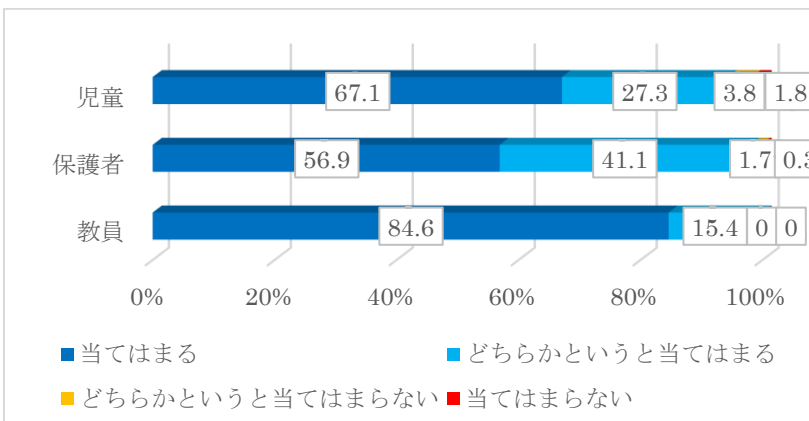
9 特別支援教育 学校は、担任の先生だけでなく、通級の先生、スクールサポーターの先生、スクールカウンセラーの先生などがいることで、安心して学校生活を送ることができる。



通級指導教員とスクールサポーターは個々の児童の個性に寄り添い、担任と保護者に的確なアドバイスをしてくれるので、児童が安定した学校生活を送ることができている。

今年度、スクールカウンセラーは火曜、木曜の週2回、児童だけでなく保護者の方にも丁寧に寄り添い対応をしている。今後も連携を図っていきたい。

10 環境整備 学校の教室や廊下、校庭や体育館などは安全で学習しやすい。



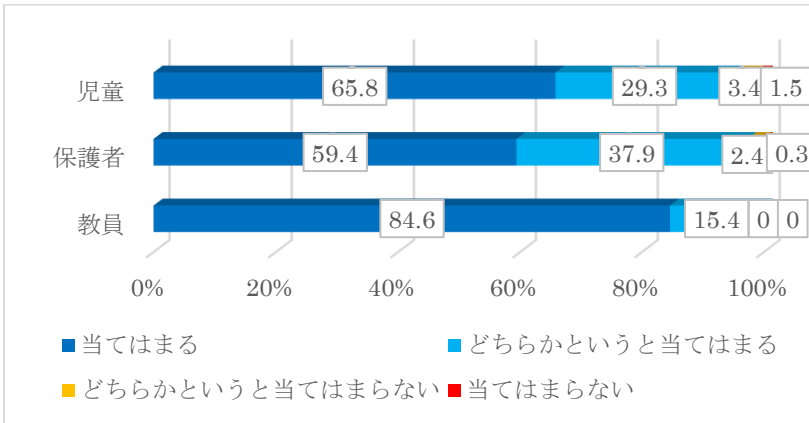
日々の清掃は勿論のことながら、毎月の安全点検を全教職員で行い児童の安全な学校生活が保たれている。

営繕や修理については用務主事や事務主事が迅速に対応しているため、今後も「学校施設における事故・怪我ゼロ」を目指していく。

項目5とも関わるが、子どもたちの学びを止めないための「オンライン対応」についても評価をいただいた。

1.1 家庭・地域との連携と情報発信

学校は、授業参観や学習発表会、おたより、ホームページを通して、保護者や地域に学校の様子を伝えようとしている。

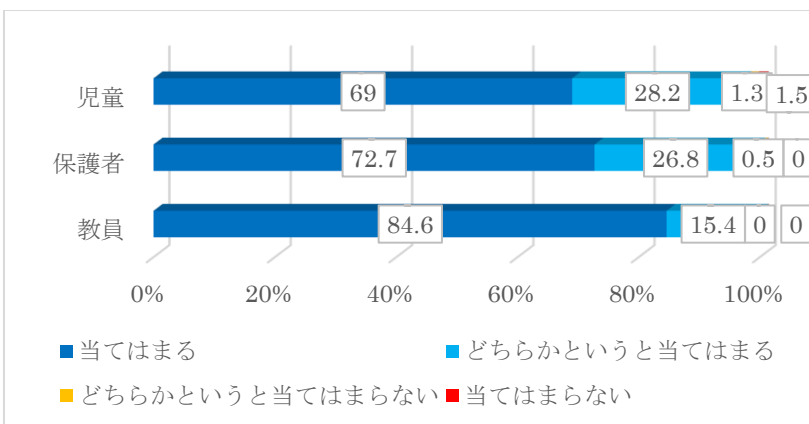


コロナ禍において保護者が密にならないように見る時間を人数で区切って行った授業参観やズームでの保護者会、行事での人数制限については一定のご理解をいただきました。

次年度以降も With コロナの対応にはなるが、安心して子どもたちの成長の様子を見ていただけるよう、状況に合わせて学校公開や情報発信をしていきたい。

1.2 食育

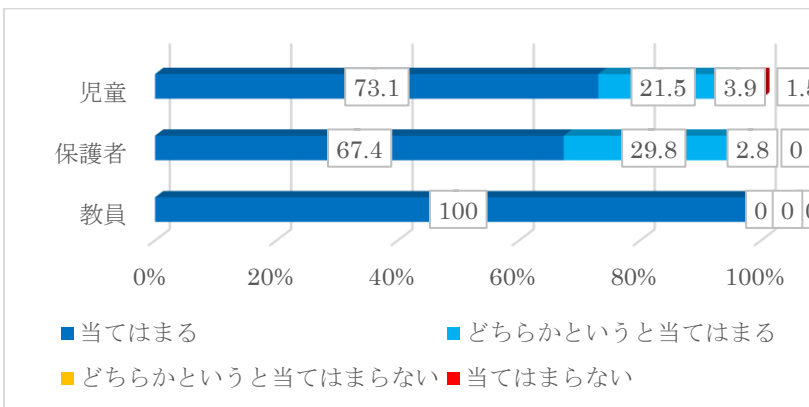
学校は、食育の指導や食物アレルギー事故防止に対する取組を行っている。



栄養士、給食主事を中心に食育を行っている。特に給食時の放送では、食に関する知識を毎日取り入れるようにしている。

食物アレルギー事故防止については毎日給食喫食前に副校長が該当学級を見回っている。除去食の配膳は給食調理員が担任の立ち合いのもと該当児童に手渡しで行い、食物アレルギー事故防止に努めている。

1.3 新型コロナウイルス感染症対策に関する活動



感染症対策は登校に10分の幅をもたせるところから始まっている。到着後直ぐに手を洗うことも習慣化してきている。コロナも3年目となり感染症対策を日常の当たり前の習慣として生活に取り入れ、自分のことを自分で守れるように、ひいては友達や家族を守るために合言葉の「あい手マスク」を続けていく。

【自由記述欄について】

<良い点：今後もより一層充実させてまいります>

- ・アンケートを実施して保護者からの評価を取り入れるのは大変よい取組だと思う。
- ・本年もコロナ禍により、学校に行く機会が少なく、子どもたちの様子をうかがうことがない中ではありますが、全体的に良い方向に向かっていると思います。

<要改善点：指摘された点を改善し、よりよい学校となるよう努力してまいります>

- ・子どもあてのクラスルームでの先生からの指示内容が保護者のスマホなどで閲覧だけで良いので確認できるとよいと思う。
- ・ZOOMを利用した保護者会でオンラインで参加できない時に期限を決めて後で配信していただけると内容が分かって助かります。

※今年度の保護者アンケートの回収率は63.3%でした。ご多用の中、ご協力をありがとうございました。